

令和2年度 自己評価・学校関係者評価書

学校法人 藤原学園日本平幼稚園 園長 藤原はつる

学校法人 日本平幼稚園が高関係者評価委員会

1 幼稚園の教育目標

「健やかな身体、やさしい心、豊かな想像力」のバランスのある成長・発達を目指す。

～6つの生きる力を育てる～

自立心・積極性・協力心・表現力・想像力・感謝

2 本年度の重点課題（学校評価の具体的な目標や計画）

- ① 子ども一人ひとりの「育ち」を大切にされた教育を進めていく。
- ② 保育内容（通常、行事）の見直し行う。
- ③ 園業務のICT化を推進し、業務の効率化を図る。
- ④ 日常的な感染症対策を随時検討し、教育とリスクのバランスを取っていく。

3 評価項目の達成及び取組状況

| 評価項目 | 評価点 | 自己評価 | 評価点 | 学校関係者評価委員会 |
|--------|-----|---|-----|---|
| 保育の計画性 | B | 各学年主任を中心に前年度の反省点を踏まえて指導計画を作成した。学年ミーティングではカリキュラムの反省や改善、新しいアイデア、業務改善等について話し合いを定期的に行った。新型コロナへの対応もあって、なかなか計画通りに進まない部分もあったが、適宜話し合いを重ね、最善の努力を行ってきた。例年通りとはいかないまでも、年間を通してのカリキュラムはある程度終えることが出来た。 | A | 新型コロナの影響もあって、保育の計画性の部分では計画通りにいかないことがたくさんあったと思う。しかし、副園長を中心に、状況に合わせた計画変更がなされており、その点については非常に評価が高いと言える。翌年度も引き続き感染症の流行が懸念されるが、令和2年度を参考に、より柔軟に対応していけるような計画づくりを期待している。 |

| | | | | |
|---------------------------|----------|--|----------|--|
| <p>保育のあり方 幼児への対応</p> | <p>A</p> | <p>保育へのあり方は、以前と比べ大きく変化している。一人ひとりの子どもを「一人の人間」として認め、良いところを見つけ、伸ばしていくということに重点を置いて行ってきた。新型コロナの影響もあって、思うように進まない部分もあったが、反面、新しいことにチャレンジできた年でもあった。改めて、子ども達の保育のあり方について深く考えるきっかけとなった年であった。</p> | <p>A</p> | <p>今年度の大きな変化として、やはり行事の見直しや保育の質の変化が挙げられる。集団としての育ちと個人としての育ちをバランスよく考え、実践していると感じられる。また新型コロナへの対応として、動画による保育の実践やiPadを利用した実践など新しい取り組みもあり、あきらめないうで、何とか子ども達の育ちを保証しようとする姿勢に園長を始めとした職員の熱意を改めて感じた。</p> |
| <p>教師として資質 能力、適正等</p> | <p>B</p> | <p>園内研修は、新型コロナの対応に追われ、例年のような園内研修が進められなかった。その中でも、職員間での子どもの育ちの共有、園長及び副園長からの保育についての話、主任以上の職員が受けた「リーダー研修」等、多方面での能力、資質の向上について出来る限り努めた。来年度は今年度の反省を生かし、園内研修の充実を図っていきたい。</p> | <p>B</p> | <p>教師としての資質・能力は個々の教員に差はあるが、研修などを通して、その資質の向上に繋がっていると感じる。今年度前半は残念ながら園内研修をすることが難しい状況であったが、後半からはICTを取り入れたオンライン研修など積極的に行っており資質向上に努める姿勢が見られた。今年度の反省を生かし、来年度につなげていってほしいと思う。</p> |
| <p>保護者への対応</p> | <p>A</p> | <p>4月・5月は休園という前例のないことが起こったが、素早く、正確に、こまめに情報を発信していくことを心掛けた。保護者の方の協力もあって、園児の感染者を1名も出さずに今年度を終えることが出来たのは幸いであった。国として女性の雇用を推進しており、共働き世帯も増えてきた中で、子どもの居場所確保の為、休園時も預かりを実施するなどの対応を取ったことは、結果として良かったと感じている。</p> | <p>A</p> | <p>新型コロナにおいて、出来る範囲の中で素早い対応を取っており、保護者対応も適切であったと感じられる。休園中もこまめに家庭に連絡を取りながら、新型コロナ情報、今後の対応について随時発信していったことは評価に値する。またその後の生活面、行事等の連絡も、適切に行っていたと思われる。翌年度も、保護者の立場に立った姿勢を忘れずに、対応を心掛けて欲しいと思う。</p> |

| | | | | |
|---------------|----------|--|----------|--|
| 地域の自然や地域との関わり | B | 例年では、久能のイチゴ狩り、日本平のお茶摘み、各学年別の遠足等、地域環境を生かした行事を行っていたが、新型コロナへの対策もあってそのほとんどが中止となった。しかし子育て支援活動を通じた地域の子ども、保護者との交流においては、1学期は止む無く中止にしたが、2学期以降積極的に行い、地域の子どもの居場所確保に努めた。 | B | お茶摘みやいちご狩り、遠足の行事が、新型コロナにより中止となったことは残念だったが、それも致し方ない状況であった。その代替え活動として、3学期に地元農家の協力によりいちごを子ども達が園で食べる活動をするなど、出来る範囲で地域との交流を継続しようとする姿勢は評価できる。来年度も是非、様々な工夫をして地域との関わりを大切にして欲しい。 |
| 研修と研究 | B | 園内研修が思うように進まなかった点が大きな反省である。しかし年度後半は、オンライン会議システムを利用した研修も行うことが出来たため、来年度へ向けてこの反省を生かし、研究・研鑽に努めていきたい。 | B | 幼稚園協会主催の市内研修や県の研修など外部研修が軒並み中止になってしまったのは残念だったが、それも致し方ないと感じている。園でできる研修を今後検討していき、来年度に活かして欲しい。 |
| 外部アンケート | A | 今年度も良い評価がとて多かった。保護者のほとんどが、保育内容に満足しているとの回答であった。特に新型コロナへの対応に満足している保護者が多かったように感じる。今回の様々な取り組みを来年度にも生かしていきたい。 | A | 全体的に今年も良い評価が多かった。今年は特に新型コロナへの対応が、外部アンケートに大きな影響を与えていると感じている。次年度もアンケートを参考に、さらなる改善を期待している。 |

4 本年度の重点課題の総合的な評価結果

- ① 日々の保育や行事への取り組みにおいて、集団と個の活動のバランスを取りながら進めていくことが出来た。
- ② 日々の保育、そして行事の目的を話し合い、改善していくことが出来た。
- ③ ICTの更なる活用を目指し、副園長を中心に積極的に活用することで、業務の効率を改善することが出来た。
- ④ 家庭と幼稚園で連携を取りながら、感染対策と教育のバランスを取ることが出来た。

5 今後取り組むべき課題

| 課 題 | 具体的な取り組み方法 |
|-------------------|--|
| 保育に活かすことのできる記録 | 日誌などの形式は決まっているが、それが日々の保育に活かされているかという点、必ずしもそうでない部分がある。自分自身の学びにもなる、新しい形の記録の形式を模索していく必要があると感じている。 |
| 「ねらい」を大切に した保育 | 保育には「ねらい」がある。「ねらい」とは、保育の「目的」である。何を大切にするのか？一度保育の原点に立ち返り、目的を意識した実践を心掛けていく必要があると感じている。 |

6 学校関係者評価委員会からのコメント

今年度は、何と言っても新型コロナウイルス感染症への対策・対応に追われた1年だったと思う。その中でも、園長を中心に、「子どもの学び」を継続していく姿勢が評価できる。それは例えば、休園中に積極的に動画を作成して、自宅待機の子ども達が少しでも楽しめるように、幼稚園を忘れないようにする工夫であったり、行事を単に中止にするのではなく、工夫を凝らしながら、違うやり方を模索していく姿勢から感じる事が出来た。

そして何より、この状況を新しい1歩を踏み出すチャンスとして、様々な方法にチャレンジする姿勢に、園長を始め、日本平幼稚園の職員の幼児教育への熱意を感じる事が出来た。

来年度はこれからどうなっていくのか、まだまだ予断を許さない状況ではあるが、今年度の反省を生かしつつ、子ども達の為に今できることを模索して行って欲しいと思う。